

群 教 ゼ	E03 - 03
	平 15.213集

よりよい学級を目指し、目標をもって活動する集団の育成 - 「学習・生活パワーアッププロジェクト」の実践と振り返りを通して -

特別研修員 永田 伊知郎

研究の概要

本研究は、中学校1年生を対象に、学習への取組や学級集団の向上に向けての創意ある小集団活動とその振り返りを通して、よりよい学級を目指して活動する集団が育成できることを実践を通して明らかにしようとしたものである。具体的には、定期テストに向けての学習活動を充実したものに「学習パワーアッププロジェクト」、学級生活を向上させるための「生活パワーアッププロジェクト」とその振り返りの活動を行った。

【キーワード：学級経営 中学校 学級活動 学級づくり】

主題設定の理由

学級とは、学校生活における生徒の基盤であり、心のよりどころとなるものである。学級における諸活動が主体的に展開され、なおかつ生徒一人一人の居場所があれば、生徒は、他の活動に対しても意欲を高めることができ、ひいては学校生活全般が充実することにつながるからである。中学1年生としては、まず、中学生としての学習と生活を充実したものにすることが大切である。そのために、いくつかの意図的・計画的な活動を通して、生徒一人一人が自己の役割を果たし、それによって学級も自分も変わっていけるという集団としての力を実感できる活動を設定する必要がある。

本学級は、男子16名、女子17名、計33名である。生徒一人一人と話をすると、前向きな考えの生徒が多く、行事では個々の役割を果たそうとする姿が見られるようになってきた。しかし、集団の中でよりよいものを目指して自分の意見を主張するという場面はなかなか見られない。係や当番活動では、全体的にやや消極的であり、集団に寄与しようとする生徒の姿も少ない。やはり行事などの特別な場面だけでなく、日常の中での集団の向上を目標として、ひとりひとりが存在感を持って活動していけることが大切である。

そこで、学習と生活を題材として、集団で取り組むことの素晴らしさとそれを支える自分や級友の頑張りに視点を当て、年間を通して生徒の取り組みをステップアップできる活動「パワーアッププロジェクト」を計画した。個々の生徒が、その活動を通して味わった充実感や達成感を互いに共有し、高め合うことで、さらに次の活動への意欲につなげていくことがねらいであり、それが私の考えるよりよい学級、「学級のために、自分にできることをしたい」という姿勢をもつ集団の育成につながるからである。

本研究において生徒が取り組む「パワーアッププロジェクト」は、日常的な活動をよりクローズアップし、集団の向上のために明確な目標を持ち、期間限定で集中して取り組むものである。1学期は、定期テストに向けて学習活動の充実を図るために各係が工夫して活動する、「学習パワーアッププロジェクト」、2学期には学級生活の向上を目指し、係活動の再編成と実践をする、「生活パワーアッププロジェクト」を学級活動を中心に設定した。また、特にそれぞれの振り返りの学級活動を充実したものにすることで、生徒は、協力して活動することのすばらしさや学級の一員としての有用感を味わうことができ、よりよい学級を目指してさらに意欲を持つことができるであろうと考え本主題を設定した。

研究のねらい

学級活動や短学活において、「学習・生活パワーアッププロジェクト」の実践とポイントアップカードを活用した振り返りの学級活動を行うことは、生徒が、学級の向上や学級の一員としての有用感を感じ、さらによりよい学級を目指して活動しようとする集団の育成につながることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 「学習パワーアッププロジェクト」とその振り返りの学級活動「プロジェクトの成果は何だろう!？」において、定期テストに向けての自己の学習活動や気持ちの変化をポイントアップカードを使って振り返るとともに、自分のプロジェクトの成果を発表し合うことによって、協力して活動することのすばらしさに気付くであろう。
- 2 「生活パワーアッププロジェクト」とその振り返りの学級活動「誰が学級を変えたか!？」において、学級のよりよい方向への変容とその原動力となった人の取組を記録しておいたポイントアップカードをもとに、各チームの実践報告とそれに対する相互評価を行うことによって、生徒個々の活動に対する成果や課題が明確となり、学級の一員としての自分の役割を実感できるであろう。
- 3 「学習・生活パワーアッププロジェクト」後の学級生活の向上のための学級活動、「さらにパワーアップ」において、プロジェクト活動を記録してきたファイルをもとに、つかんできた価値を整理し、よりよい学級にしていくための方策を話し合うことによって、学級のために自分のできることをしていこうとする意欲を高めることができるであろう。

研究の内容

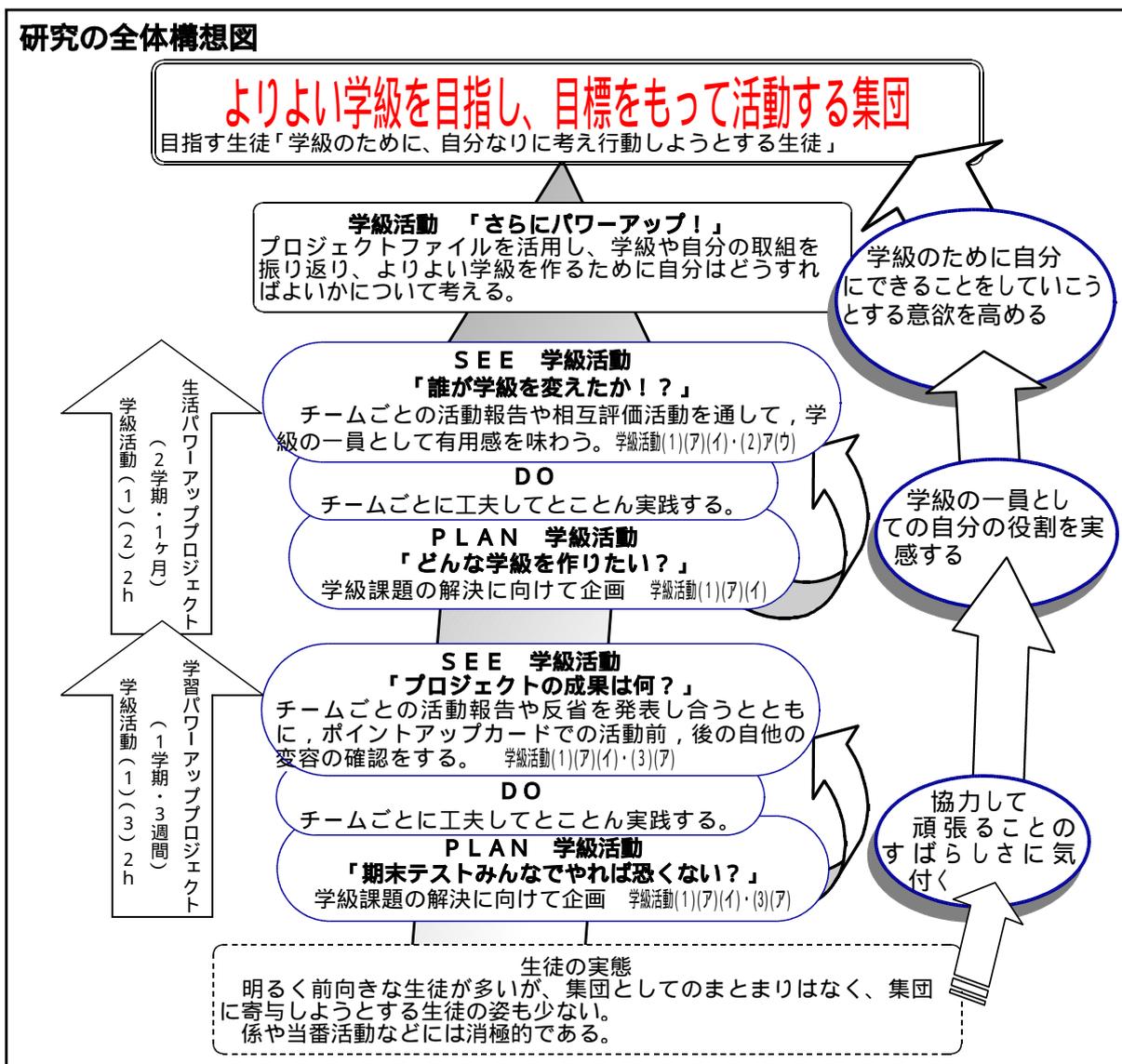
- 1 「よりよい学級を目指し、目標を持って活動する集団」について
よりよい学級を目指して活動する集団とは、学級は自分たちで作り上げていくものであると気付き、「学級のために、自分なりに考え行動したい」という前向きな姿勢をもった生徒で構成される学級集団であると考え。目指す生徒の姿としては、次の～として捉えた。
みんなで協力して頑張ることのすばらしさに気付くことのできる生徒
具体的には、自分や友達の学習に対する気持ちや取組が向上したことに気付くことのできる生徒ととらえる。
自分も学級の一員として役割を実感できる生徒
具体的には、自己の取組について、周囲から認められたことをうれしく思い、さらに頑張ろうとする生徒ととらえる。
よりよい学級を目指して、学級のために自分のできることをしていこうとする意欲の高まった生徒
具体的には、プロジェクトによる今までの取組の成果を自分たちの言葉で語り、さらによりよい学級を目指して新たな目標や手だてを考えることができる生徒ととらえる。
また、このような集団を育てるためには、それぞれのねらいに応じた活動の場を設定し、気持ちを振り返らせる必要があると考え次のようなプロジェクトの活動を考えた。

2 「学習・生活パワーアッププロジェクト」について

学習や生活といった日常的な生徒の活動をクローズアップし、自分たちが抱える課題の解決に向けて、係(チーム)ごとに工夫しながら楽しく取り組む活動である。

「学習パワーアッププロジェクト」は、1学期の期末テスト前3週間、「生活パワーアッププロジェクト」は、2学期の11月1ヶ月間集中的に取り組む。

いずれも、生徒は、PLANで各チームごとに学級の課題の解決に向けて明確な目標と手だてを考え、全体の前で宣言する。DOでは、目標の達成に向けて自己の役割を果たせるよう、創意工夫しながら最善を尽くす。SEEでは、学級や自他の変容を記録したポイントアップカードを用いて活動から得た成果を共有し、高め合っていく。



3 「ポイントアップカード」について(資料1、写真 参照)

「学習・生活パワーアッププロジェクト」の実践や振り返りにおいて、生徒の活動や取組、感想を記録するワークシートの総称である。特に、本研究にかかわる活動では、プロジェクトに向けての私の思い 実践してきた事実 事実に対する自分なりの評価 学級や自分の変容 級友の活躍などに視点を当ててまとめる。これを振り返りの活動で、以前の自分と比較したり、学んだ価値を構造化する際に活用し、高まった学級や学級の一員としての自分を意識しながら、さらなる意欲につなげたい。

実践の概要および結果と考察

検証にあたっては、ポイントアップカードの記述内容の変化、生徒の活動の様子、抽出生徒の感想文を中心に行っていく。抽出生徒は、自分なりに目標を持って学習に取り組むことや集団活動に積極的にかかわることへ意欲を課題とする生徒A子である。

1 みんなで協力して頑張ることのすばらしさに気付くことができたか。

(1) 実践の概要

期末テストへの不安については、「範囲が広いので心配だ」「内容が難しくなっている」「勉強の仕方がわからない」「勉強に集中できない」などの声が84%あった。生徒は、これら学級としての実態を把握し、「困っているのは自分だけではない」ということを知り、それぞれの係の立場から課題解決に向けての検討を行い、「これならできる、やってみたい」と思える手だてを□で企画し、全員の前で宣言した。□実践の段階では、掲示物での広報や朝の会・帰りの会での活動を充実することで、活動を盛り上げていき3週間取り組んだ。□振り返りの学級活動「プロジェクトの成果は何だろう」では、各自の取組や気持ちの変化を出し合い、構造化することで、みんなで頑張ることの価値を考え、プロジェクトの成果を高める場とした。

「学習パワーアッププロジェクト」

□ 学級活動 (1時間)

「期末テストみんなでやれば怖くない!!」

中間テストでの実態と期末テストに向けての気持ちを発表し合い、課題意識をもつ。プロジェクトを実行するために、企画(これをやります!)を宣言する。(写真)チームは、既存の係で行う。

□ 朝の会・帰りの会・昼休み・朝自習での実践

各教科係…抜き打ちプレテスト!
(国、社、数、理、英、音、技家)
体育係…適切な睡眠について
美術係…提出物チェック、忘れ物チェック
生活ノート係…学習時間チェック&発表 (写真)
新聞係…紙上で学習方法の情報交換
集配係…質問箱設置

□ 学級活動 (1時間)

「プロジェクトの成果は何だろう!？」

学級の平均点の発表や各チームの活動後の反省を聞き、ポイントアップカードでの活動前、後の自己の変容の確認をする。

□はPLAN、□はDO、□はSEEを表す。

写真 係ごとの企画書を掲示した様子

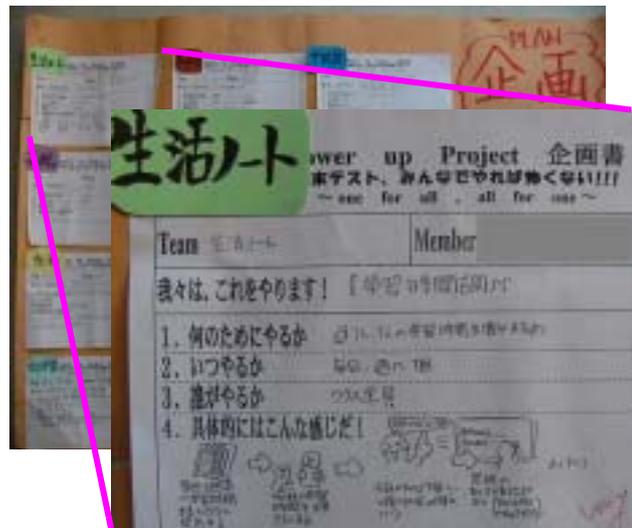


写真 係ごとの実践(掲示物)



(2) 結果と考察

A子は、中間テストの時には、「あんまり頑張ろうという気持ちになかった」という感想をもっていた。資料1のプロジェクト後のポイントアップカードには、「その人より頑張ろうと思えた」「係の人が作ってくれたプリントのおかげで頑張れた」「学習時間がぐーんと上がった」と記述されていた。他の係が頑張っている姿に気付くとともに、集団として活動したおかげで、以前の自分とは明らかに変わったということを実感していることから、協力して活動することのすばらしさに気付いたといえる。

また、資料2は、学習時間調査をした生活ノート系の生徒が書いた感想文である。この生徒は、「こんなのでクラスの学習時間が上がるのかな」という不安を抱いていたが、自分たちの取組によってA子の学習時間が増えたことに気付き、自信をもてるようになった。この資料から、みんなで活動することが、互いにより刺激になり、高め合っているということがよくわかる。

資料3は、学級活動「プロジェクトの成果は何だろう」において、生徒の発表内容を構造化したものである。Aの領域は、「自己の学習に対する取組が変わった」という内容のコメントを集めたものであり、全体の76%であった。自己の変容を認められなかった生徒もいたが、それらの生徒は、Bの「他の係や友達への学習に対する取組が高まった」、Cの「自己の学習に対する気持ちの変化があった」という内容の記述をしていた。全ての生徒がA、B、Cいずれかの内容についての記述をしていることから、自分や友達への学習に対する取組および気持ちの向上に気付くことができたといえる。さらには、プロジェクトを集約するDの領域「学級の変容や高まり」についての記述をしている生徒のコメントを紹介することで、協力して活動することのすばらしさに気付くというプロジェクトの成果をさらに高めることができたと考えられる。

資料1 ポイントアップカードへのA子の記述

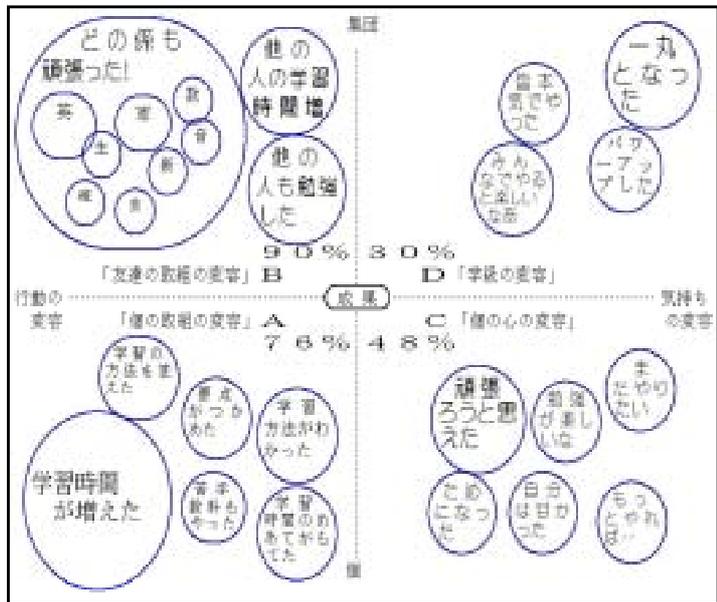
プロジェクトによって、中間テストと比較して変わったことは何ですか？	
中間テスト	期末テスト
<p>だらだらして、気がつくとも時間が終わっていた・・・。あんまり頑張ろうという気持ちになかった。</p>	<p>生活ノート係が調べた、No.1になった人の勉強時間が参考になり、その人より頑張ろうと思えた。他の係の人たちがプリントを作ってくれたおかげで頑張れた。平均勉強時間がぐーんと上がった。クラスとしての成果は、すごかった！</p>

資料2 授業後の生活ノート系の生徒の感想

私は、毎日の学習時間の調査と帰りの会での発表をしました。最初は、こんなのでクラスの学習時間が上がるのかな？と不安でした。しかし、プロジェクトが始まり、学習時間を調べていると、始めたばかりなのになんとAさんが週末に9時間半も勉強したことがわかりました。こんなに本気になって取り組んでくれているんだと思ううれしかったです。それから学習時間がクラスでけっこう増えました。また、他の係の人も一生懸命にプリントを作ってくれていました。
 今日の授業で全員の発表を聞いて、プロジェクトをやっているいろいろな成果があったんだなぁと改めて感じました。みんなで本気で取り組むことは大切だと思いました。

下線はA子の気持ちの変化を見とれる部分

資料3 生徒の感想を構造化した図



2 自分も学級の一員として役割を果たしたという実感をもてたか。

(1) 実践の概要

学級をよりよいものにしたいという自分の思いを実現するために、自分に何が出来るか、何をしたいかということをも自由な発想を大切にしながら責任をもって考え、同じ志をもったもの同士のチームを編成し工夫しながら活動した。

このような、自分たちの学級を自分たちの手で作り上げるという活動を通して、高まった学級の姿やそれにかかわった自分に自信をもつための振り返りの場として、学級活動「誰が学級を変えたか!？」を設定した。ここでは、各チームの実践報告とそれに対する他の生徒の感想や感謝の気持ちをポイントアップカードによって評価し合った。

「生活パワーアッププロジェクト」

学級活動
「どんな学級を作りたい？」
 自分も持っている学級への思いを実現するために、同じ志をもつもの同士でチームを組む。あらかじめ、学級活動委員がアンケートを基に原案を作成しておき、全体に提案をする。
チームごとに企画(これをやります!)
を宣言する。(写真)

朝の会・帰りの会、休み時間での実践
「インテリアコーディネーターの家」
 掲示物作成(写真)、緑化
「ゴミズ」
 ゴミ拾い、落とし物管理
「熱血手伝い隊」
 困っている人を助ける
「小島急便」
 配布、収集物の管理
「轟組」
 クラスを楽しくするレクをする
「チェック&GO」
 生活・学習ノートを全員に提出してもらう。
「食いだおれ屋」
 献立発表、週間MVP、おかわり優先券
「フジテレビ朝日発行社」
 情報のお知らせ、新聞発行

学級活動
「誰が学級を変えたか!？」
 1) 学級の変容を確認するとともに、ポイントアップカード(写真)を使い、認め合いのための振り返り活動を行う。
 2) プロジェクトを通して、生徒が感じたキーワードを発表する。それを教師がまとめ、黒板に板書(写真)する。
 3) 生徒はプロジェクトの価値を確認しながら、ワークシートに感想を書く。

写真 チームごとの企画書を掲示した様子



写真
インテリアチームが作成した
掲示物の一部



写真
他のチームの
認める「ポイントアップカード」の例

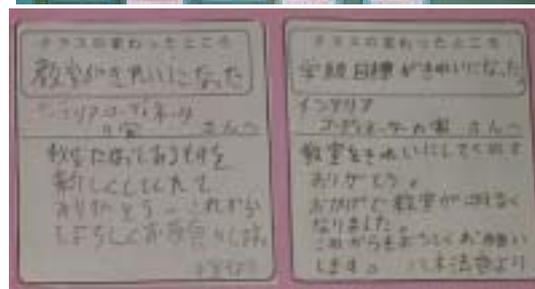
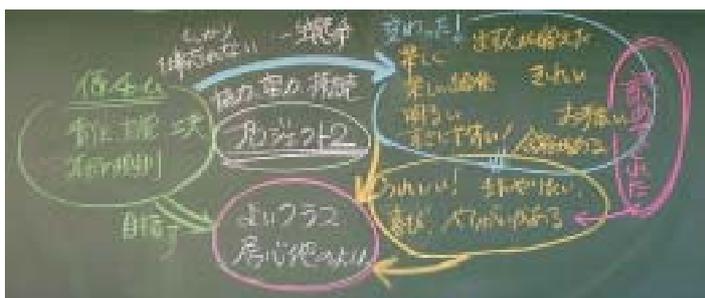


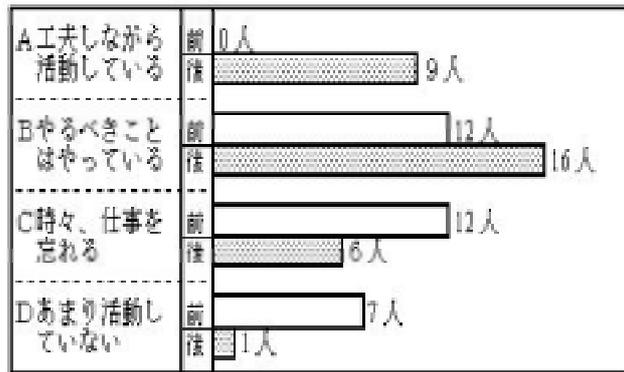
写真 生徒の考えるキーワードを黒板にまとめた様子



(2) 結果と考察

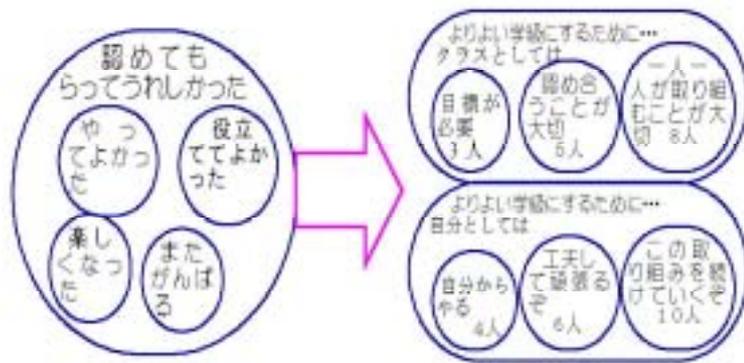
資料4は、プロジェクト以前と以後における係活動への取組について、アンケートをとり、比較したものである。A、Bに属する生徒が12人から25人へ増加していることから、プロジェクト後における生徒の取組は明らかに向上していることがわかる。詳細は、プロジェクト前よりも取組が向上した生徒の割合は72%、変わらなかった生徒は22%、下降した生徒は6%であった。

資料4 プロジェクト前後の係活動への取組の比較



このように、生徒の取組が高まりつつある状況の中で、ポイントアップカード(写真)によって各チームの活動を認め合う場を設けたところ、資料5のように、全員の生徒が、「認めてもらえてうれしかった」という内容の記述をしていた。さらに、よりよい学級を目指して、「自分としてはどうするか」や「クラスとして必要なこと」を考え、感想文にまとめることができた。

資料5 生徒の感想文の内容をまとめた図



資料6は、A子の感想文である。A子は、プロジェクト前のアンケートで「Dあまり活動していない」と答えたが、プロジェクト後には3段階向上し「A工夫しながら活動している」と答えた。最初は、あまりやる気が出なかったり放課後残って仕事をするのがいやだったりが、「みんながいること」「みんなが書いてくれた一言一言」によって「やってよかった」「みんなの楽しみを作れたかな?」という満足した気持ちをもつようになっ変わったことがわかる。集団の一員としての役割を実感した

資料6 A子の感想文

今までは、新聞作りを熱心にした!!みんなに喜んでもらえるのがうれしかった!!
 最初は、あんまりプロジェクトなんかやりたくなかった。だけど、おもしろいチーム名も決まって、新聞作りもおもしろかった。作り出す前はなかなかまとまらなくて、大変だったけど、みんながいるから頑張れた。
 自分は・・・みんなの楽しみを作れたかな?ちょっと残ってかかり活動するのは正直、いやだったけど、1つ作品ができると次も!!って気になるし、みんなが紙に書いてくれた一言一言が「やってよかった」って気にさせてくれた。
これからは、もっとできるクラスを目指して、活気のあるチーム活動をしていきたいです!!
 クラスのみんなが、一人一人やる気になれば、何でもできる気がする。みんな・みんな・みんなですることの意味がある。

たということであり、これによってさらに、「活気のあるチーム活動をしていきたい」という今後の活動への意欲を高めていることがわかる。

これらのことから、各チームの実践報告とそれに対するポイントアップカードによる認め合いの活動を行うことにより、生徒が、自己の取組について周囲から認められたことをうれしく思うとともに、さらに頑張ろうとする意欲をもつことができたと考えられる。

3 よりよい学級を目指して自分なりの目標を立て、さらに活動していこうとする意欲が高まったか。

(1) 実践の概要

ファイルに綴ってきた自分の思いの中からキーワードを抜き出し、チームごとに構造化することによって、プロジェクトを通して得たことを明確にした。

写真 は、学級活動 「さらにパワーアップ」において、キーワードをもとに、「よりよい学級」を作るための今までのストーリーを「フジテレビ朝日新聞社」がまとめた図である。このチームは、資料7のように、クラスに必要な情報を学級新聞として発行する活動を行ってきた。写真 には、気持ちや活動がなかなか軌道に乗らない様子やそれをみんなで乗り越えてきた様子がよく表されている。

写真 フジテレビ朝日新聞社チームのまとめた図

「さらにパワーアップ」

学級活動

「さらにパワーアップ！」

- 1) プロジェクトファイルを基にして、チームごとに今までの取組を振り返る。ポイントアップカードの記述の中から、キーワードを抜き出し、付箋紙に書く。
- 2) キーワードを仲間分けして、模造紙に貼り、自分たちの学びのストーリーを作り上げる。
- 3) チームごとにストーリーを発表する。
- 4) さらによりよい学級を目指して、目標や手だてを考える。



また、「フジテレビ朝日新聞社」が、構造化した図（写真）についての発表を行った際、A子は、次の資料8のように説明した。

資料7 妙高自然教室に向けて作成した雪像情報



資料8 写真 についてのA子の説明

私たちがパワーアッププロジェクトで学んだことは、例えるなら「りんごの木」です。最初は、「根」。何をしたいかわからず、手探りでも工夫して、協力していき、「りんごの木」はどんどん育っていきました。時には、「めんどくさい」「やる気がない」などのことがあっても、それが水になり「りんごの木」を生長させました。最初にできた「実」は、みんなでやって「楽しい」「明るい」などの気持ちでした。次にできた「実」は、とても甘く、認めてもらったりしたことでがんばれました。これからも、よりよい学級にするために「目標」を持ち「りんごの木」のように育っていきたいと思います。

(2) 結果と考察

A子は、「学習パワーアッププロジェクト」の事前調査では、学習への不安が大きく、「生活パワーアッププロジェクト」の事前調査では、あまり活動していないと答えていた。

資料9を見ると、チームで作成した図(写真)をもとに、A子は、さらに自分なりに考え実感を込めて表現していることがわかる。それは、つまずきながらも頑張り、各プロジェクトを通して得た、「みんなで頑張ることのすばらしさ」や「学級の一員としての有用感」である。

そして、A子は、一人一人が目標をもつことが大切である(資料9)と書くとともに、目標(資料10)に、プロジェクトの時だけでなく、日頃から充実した活動ができるようにすることやそのために自分ができることをがんばりたいと書いている。このことから、自分なりにより具体的な目標をつかむとともに、全員が目標を持つことの大切さに気付いたといえる。

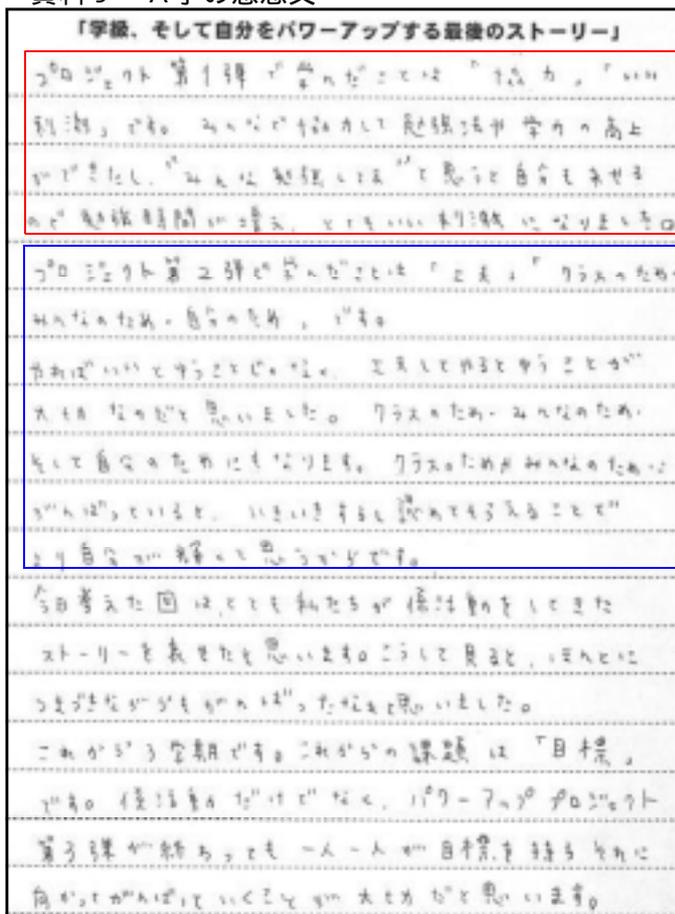
資料11は、全員が考えた目標をグループ分けしたものである。全員の生徒が、「自分がこうしたい」と明確に記述するとともに、「学級としてこうしたいほうがよい」という記述をしている。内容については、見通し2(資料5)の時よりも具体的に考えられることができた。

また、「プロジェクトから自立しなければならぬ」と考えられた生徒がいることから、主体性の伸長や日常化への意欲がうかがえる。

これらのことから、プロジェクトでの取組や成果を自分たちの言葉で語り振り返ることにより、学級を自分たちの手で創り上げるための新たな目標や手だてを

考えることができたといえる。さらには、集団生活を向上させるために必要なことや課題について、「学級としてこうすべきだ」ということと、「自分はこうしたい」という両面から考えていることから、「よりよい学級を目指して」ということを意識しながら、「学級の一員としての自己の役割や目標」を自覚できていると考えられる。

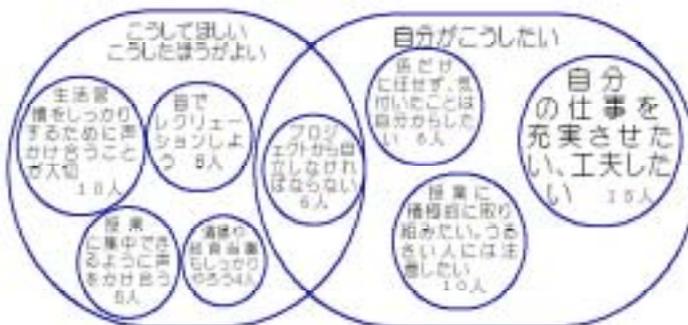
資料9 A子の感想文



資料10 A子の目標

- ・パワーアッププロジェクトをなくして、自分たちが日頃から考え、行動できるようにする。
- ・自分たちの仕事だけでなく助け合う。例えば、インテリアコーディネーターの仕事を、みんなで考える。小島急便が配るものを自分も配る。熱血お手伝い係にきたお手伝いをさらに手伝う。

資料11 生徒が考えた目標をグループ分けした図



研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究では、中学校1年生を対象として、学級における日常生活を充実したものにするために、集団として取り組むことの素晴らしさとそれを支える自分や級友の頑張りに視点を当て、学習と生活を題材として、年間を通して計画的に取り組んできた。

また、「学習・生活パワーアッププロジェクト」は、「企画・実践・振り返り」のサイクルを明確に大切にしながら取り組んだものである。生徒は、学級としての課題を把握し、それをプラス方向へ転じるための手だてをチームごとに創意を生かしながら企画した。これをもとに、全員による実践が始まり、互いに触発されながら、少しずつ学習活動や係活動が高まっていった。そして、振り返りの学級活動において、学習や生活に関しての自分たちの向上やその活動から得たものを考えることによって、個々に得てきた少しずつの成果を学級全体の大きな財産として共有することができた。このように、「企画」によって明確な目標や手だてをもつこと、それをもとに全員で「実践」をすること、そして必ず「振り返り」を行い、自分たちの行ってきた活動の意義や価値を見だし、共有することが大切である。

1学期の「学習パワーアッププロジェクト」では、生徒が、協力して活動することのすばらしさに気付くことをねらいとして、期末テストに向けての学習習慣や学力の向上を題材として取り組んだ。生徒にとって不安要素の強い期末テストではあるが、学級としての取組を通して、互いの学習に対する取組や思いを知り合うとともに、全員で活動することによって向上していく学級や自己の学習に対する取組を実感することができた。

2学期の「生活パワーアッププロジェクト」では、集団を支える個に視点を当て、学級の一員として役割を果たした自分や級友に気付かせたいと考えた。生徒は、自分なりの思いを基に、学級生活の向上に向けて実践を重ねた。そして、互いの実践を認め合う場面を設けることによって、決して目立つ活動ばかりではなかったかもしれないが、一人一人が存在感をもって活動していけることが大切であるということに気付くことができた。

プロジェクト全体を振り返る「さらにパワーアップ」では、自分が学んできたことを整理し、そのストーリーを自分の言葉で語ることによって、よりよい学級を目指すには何が必要なのかを明確にした。そして、今の学級の実態と考え合わせた上で、より具体的な新たな目標や手だてを考えることができた。

以上のことから、年間を通した段階的・計画的な実践を進めていくことは、よりよい集団を目指して活動しようとする集団の育成に有効であると考えられる。

2 今後の課題

プロジェクトは、生徒の学校生活における諸活動への取組や気持ちについての実態に合わせながら、実施の時期について柔軟に考えていく必要がある。また、期間限定で日常的な活動を盛り上げていくものであるため、他の行事とのかねあいを考え、校内全体の流れを押さえた上で綿密な計画を立てておく必要がある。あらかじめ、学年や学校行事をプロジェクトの一部として生かす方向で考え、行事の前にチームの編成を行うという方策もより有効であると考えている。

<参考文献>

辰野 千壽 著 『学習方略の心理学』 図書文化社(1997)
(株)インタービジョン総合研究所 著 『チームマネジメント』 P H P 研究所(2001)